

ビブリオバトル

★ビブリオバトルとは

「ビブリオ」は書籍を表すラテン語由来の接頭辞でバトルは戦いを意味します。

「ビブリオバトル」とは、私たちは本といたいどこで出会っているのか。

どんな本とどこで出会うのかということに思いをきたし、京都大学情報学研究科(片井研)特別研究員(当時)の谷口忠大たにぐちただひろさんが2007年に考案した、ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの「書評合戦」です。

「ビブリオバトル」は自分の興味や読んだ本の面白さを知ってもらえる。プレゼンのトレーニングにもなると、大学、会社、小、中高校、図書館、書店、様々なコミュニティで注目されてきています。

★ビブリオバトル公式ルールは

ビブリオバトル公式ルール

【公式ルール】

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

【ルールの補足】

- 1 各発表参加者が自分で読んで面白いと思った本を持ってきて集まる。
 - a 他人が推薦したものでかまわないが、必ず発表者自身が選ぶこと。
 - b それぞれの開催でテーマを設定することは問題ない。
- 2 順番に一人5分でカウントダウンタイマーをまわしながら本を紹介する。

ビブリオバトラーは読んだ本について、スライドやレジュメは一切使わず、自分の言葉で5分のプレゼンテーションを行い、自分の言葉で本の面白さを伝える。

 - a 5分が過ぎた時点でタイムアップとし発表を終了する。
 - b 原則レジュメやプレゼン資料の配布等はせず、できるだけライブ感をもって発表する。
 - c 発表者は必ず5分間を使い切る。
- 3 紹介された本について2～3分のディスカッションを行う。
 - a 発表内容でわからなかった点の追加説明や、「どの本が一番読みたくなったか？」の判断を後でするための材料をきく。
 - b 全参加者がその場が楽しい場となるように配慮する。
- 4 全発表参加者に紹介された本の中で「どの本を一番読みたくなったか？」を基準に参加者全員で投票を行い最多票を集めたものを チャンプ本 として決定する。
 - a 紳士協定として、発表者は自分の紹介した本には投票せず、他の発表者の本に投票する。
 - b チャンプ本は参加者全員の投票で決定され、司会者、審査員といった少数により決定されてはならない。参加者は発表参加者、聴講参加者よりなる。全参加者という場合にはこれらすべてを指す。

参考資料 文芸新書 ビブリオバトル
本を知り人を知る書評ゲーム
著者 谷口忠大

2014年4月18日 京都クラブ 堂下漣子